西日本新聞
2020年8月1日（星期六）P.5

台湾民主化 二国論が起点

李登輝氏死去

「李蔡師弟」20年かけ定着

中国が掲げる「一国二制度」による統一を拒んだ台湾の李登輝元総統(97)が死去した。台湾では中国への抵抗の構図が定着、香港でも民主派の若者が立ち上がる。中国の習近平国家主席にとって、台湾統一は歴代指導者が成し得なかった悲願。締め付けを強めるが、達成は遠のくばかりだ。

「歴史の罪人」

「歴史の罪人」。中国国営中央テレビは7月31日の報道で、李氏を死後も罵倒した。

「死をどう表現すべきか」。中国当局は李氏の病状悪化を受け、死去時の伝え方について秘密裏に検討を重ねた。中国筋は明かす。死者への敬意がにじむ「病逝」ではなく「病亡」という表現を用いることを確認した。

上2012年1月、台湾総統選前日の集会で、李登輝元総統(右)と手を上げる民進党の蔡英文主席＝台湾・新北市（共同）
下平井数馬の墓を訪れた李登輝氏（左）。右は平井真理子さん＝09年9月、熊本市(日本李登輝友の会提供)

李氏は1999年に中台関係を「特殊な国と国の関係」とした「二国論」を宣言し、「一国二制度」による、中国の台湾統一を真っ向から否定。中国にとって「絶対に許せない」（中国紙）因縁の敵だ。

李氏が高齢となり影響力が衰えた2019年1月、習氏は李氏の支持する台湾独立志向の与党、民主進歩党（民進党）が前年の統一地方選で惨敗したことを"勝機"と捉え、同制度による台湾統一を正面から訴えた。

それが裏目に。中国の統一圧力を拒否する姿勢を明確にした民進党の蔡英文総統に支持が集まり、今年1月の蔡氏の総統再選を後押しした。さらに6月の香港国家安全維持法（国安法）制定で、香港の一国二制度を形骸化させ、台湾で同制度への拒否感を強める結果に。習指導部は制度の扱いで「失敗を重ねている」（北京の大学教授）。

「台湾人意識」

「二国論」は李氏が宣言したが、起草に携わったのは蔡氏だ。「国家主権に対する堅固な姿勢は私に深い印象を与えた」。蔡氏は7月30日夜、かつて部下として仕えた李氏から受けた影響の大きさを振り返った。

約20年かけて「李蔡師弟ペア」が打ち出した中国の統一圧力に抵抗する構図。「台湾人意識」の高まりと共鳴し、今の台湾で主流の民意として定着した。

李氏が「二国論」を宣言した背景は何か。李氏が総統に就任した翌年の1989年、中国で学生の民主化運動を武力弾圧した天安門事件が発生。共産党は政治改革を放棄して一党独裁支配を強化していった。

一方、事件に衝撃を受けた台湾は民主化を着々と推進した。憲法改正、司法改革…。96年には総統直接選挙を実現。中台の価値観と統治の仕組みは既に全く相いれない状況となっている。

（香港、台北、北京共同）

「懐大きく」「いつも率直」

九州でも交流、関係者悼む

7月30日に死去した台湾の李登輝元総統は九州の関係者とも強い絆で結ばれていた。2009年9月には熊本県を3泊4日の日程で訪問し、旧交を温めた。

このとき、台湾近代教育の礎を築いた一人とされる熊本出身の教育者、平井数馬の墓を案内した平井真理子さん(70)＝福岡市博多区＝は「日本の教育のおかげで今の台湾があると語っていた姿が忘れられない」と故人をしのぶ。

真理子さんは数馬の兄の孫で、李氏との交流は17年に及んだ。日本が台湾を統治していた過去を気にする真理子さんに対して、李氏がかけたのは「日本は悪くない」との言葉。「背の高い大きな人でしたが、本当に優しくて、懐も大きな人でした」と振り返る。

熊本訪問の際に案内役の一人だった多久善郎さん(66)＝同県合志市＝は、李氏と出会って15年以上になる。「かつて手紙を書いて送ったところ、丁寧な返信をもらって驚いた」ことを覚えている。「ざっくばらんで、日本に大きな期待を寄せている人だった」と尽きぬ思い出を語る。

久留米大の大矢野栄次教授（経済学）は二十数年前に台湾で李氏と面会して以来、自宅や研究所などをしばしば訪れ交流を深めた。

大矢野教授によると、李氏は「書籍などをきちんと読んで議論を挑むと、真剣に応じてくれる。だが、こちらが不勉強だとけんもほろろ。昔かたぎの"日本人"だった」。議論が白熱し、15分間の面会予定が2時間に延びることもあった。

大矢野教授は8回にわたり久留米大の学生約20人を連れて渡台し、李氏の講義を受けた。李氏は学生らに「昔の日本人は誇りを持って台湾を支配した。君たちも誇りを持て」などと、べらんめえ調の日本語で語りかけたという。「李氏はいつも爽快なほど率直で、学生は驚いていた」と話した。

（久永健志、江藤俊哉）

台湾で半旗掲揚 追悼場の設置も

【台北共同】台湾総統府の報道官は31日、李登輝元総統の死去を受けて、政府機関と学校で同日午後から8月2日まで半旗を掲げるほか、総統府近くの迎賓館「台北賓館」に追悼場を設置し、同1日から16日まで一般公開すると発表した。告別式の日程は未定。李氏の遺書などに基づき、追悼場への団体での訪問や花輪や花かごは辞退するとした。